観光地ｋａｒｔｅレポート　Vol.5

観光地としての「認知度」と「理解度」①

～「認知されている」と「理解されている」の間に存在するギャップを確認する　～

観光地karteレポートVol.5では、観光エリア･スポット別の「認知度」と「理解度」に関するデータをご紹介いたします

旅行先の選択において、名称（認知）はもちろん、現地に関する予備知識（理解）があるか否かは、その検討に大きな影響を及ぼすものと考えられます。何が楽しめるのか想像すらできない場所は、訪れる動機づけに弱く、検討対象になることすら難しいのではないでしょうか

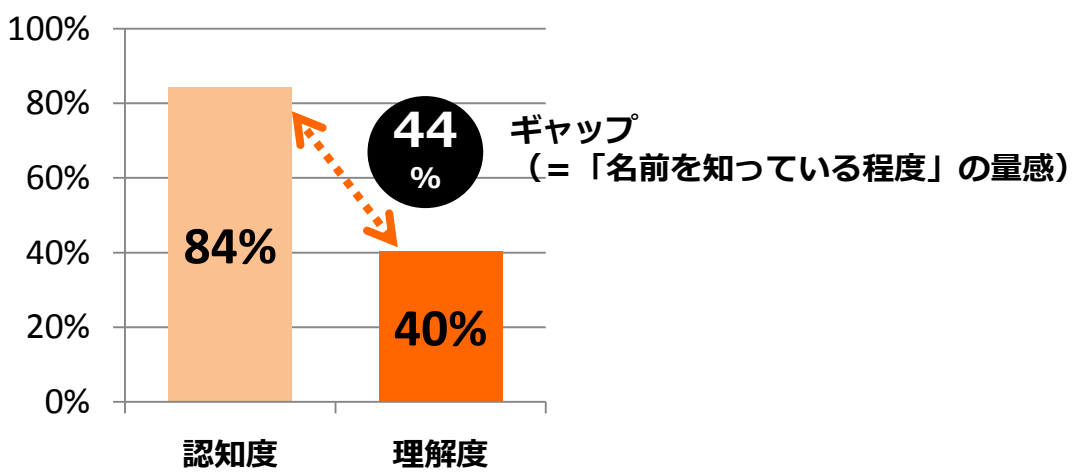
今回のレポートでは、調査対象エリア・スポットの現状把握として、各々が実際にどの程度“理解されているのか（理解度）”を数値化すると共に、その手前段階にある“認知されている（認知度）”とのギャップの存在を確認してみました

まずVol.5では、「銀座・浅草・スカイツリーエリア（東京）」「京都」「東大寺・興福寺・春日大社エリア（奈良）」「伊勢・志摩エリア（三重）」「兼六園・香林坊・ひがし茶屋街エリア（金沢）」「あべのハルカス（大阪）」「熊野古道」「鹿児島」の８エリア・スポットに関する数値を取り上げてみます（2014年11月現在のデータになる点、ご了承ください）

Q.　あなたは各エリアやスポットについて、どの程度ご存じですか
⇒【選択肢（４択SA）】詳しく知っている／だいたい知っている／名前を知っている程度／まったく知らない

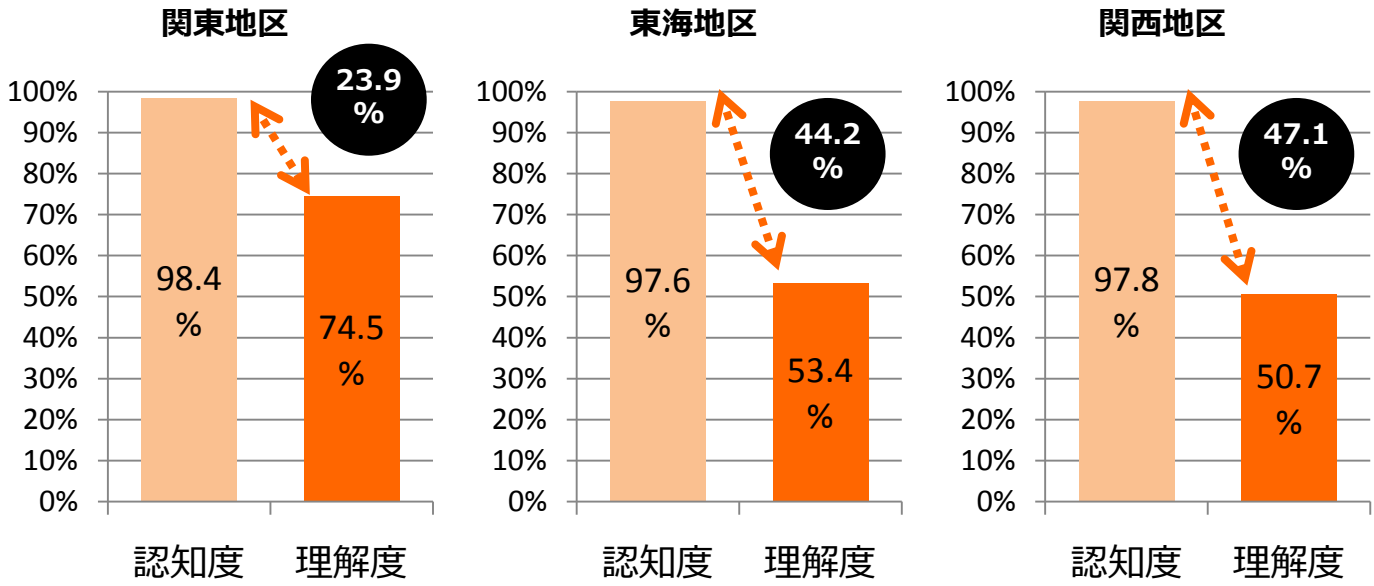
■認知度･･･
「詳しく知っている」「だいたい知っている」「名前を知っている程度」の回答率計
■理解度･･･
認知度から「名前を知っている程度」を除いた回答率計

全エリア・スポット平均値



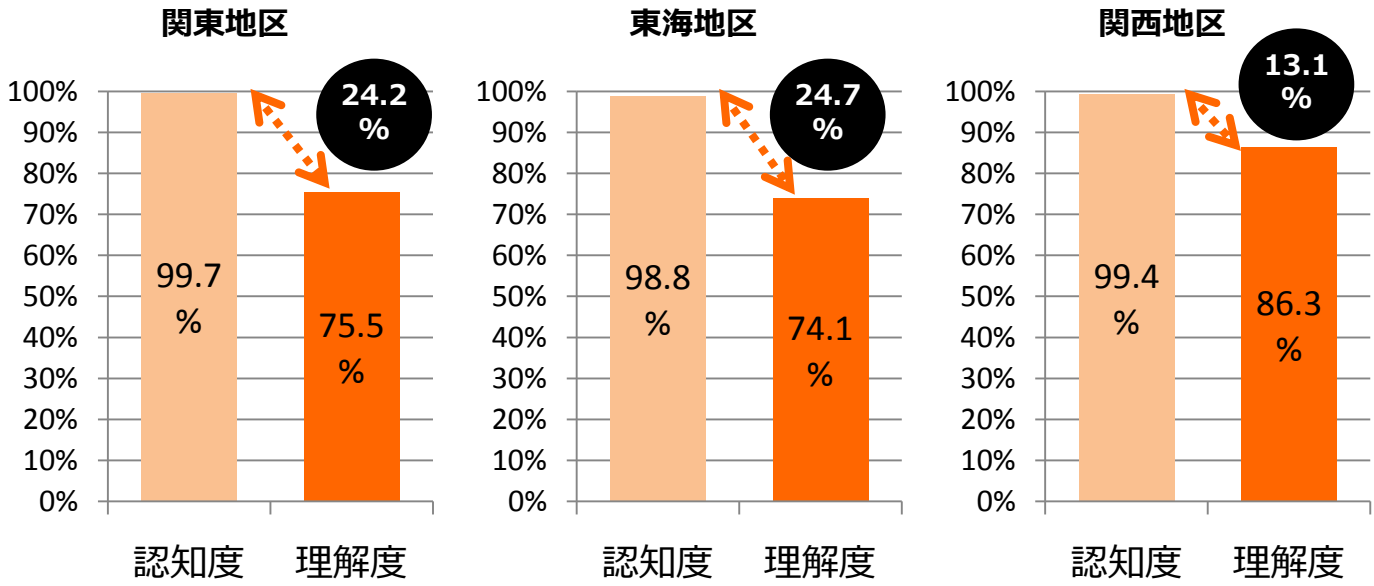
銀座・浅草・スカイツリーエリア（東京）

認知度・理解度自体いずれも高い。理解度の高さは地元関東はもちろん、東海･関西圏在住者でも50%を超えるなど平均値を優に上回るポイントを獲得しており、100%に迫る認知度とのギャップは45%と、およそ平均値といえる範疇である



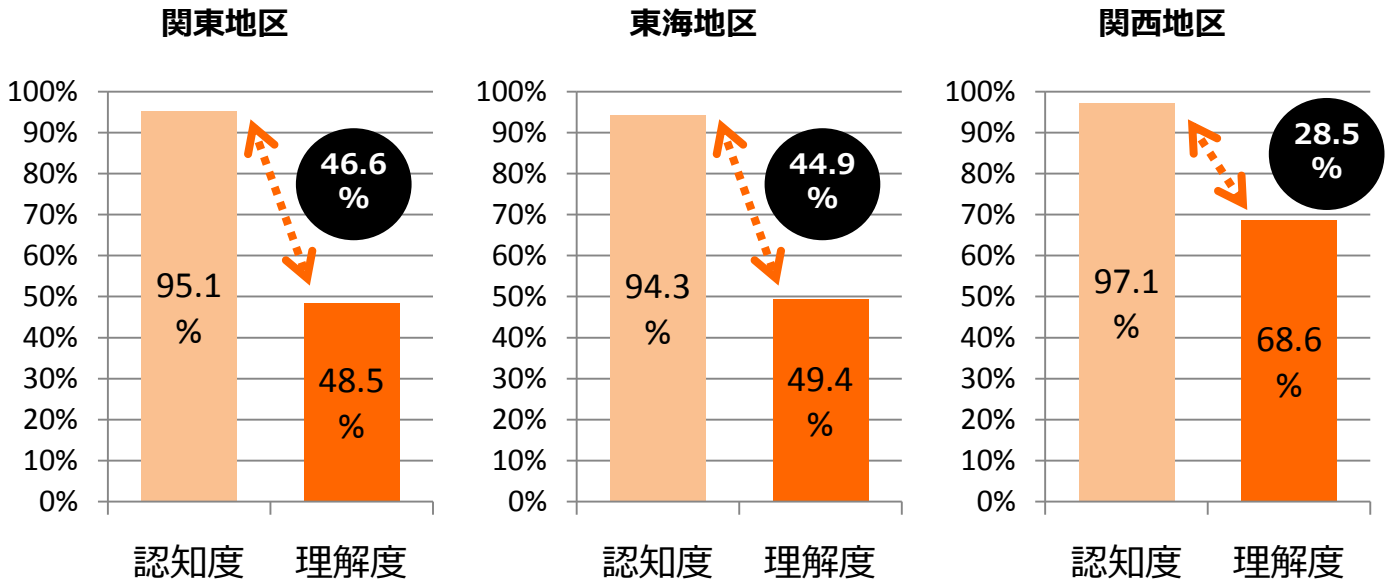
京　都

理解度は、地元関西はもちろん関東･東海圏でも70%を超え、今回の調査対象エリア･スポットの中では認知度と共に最高値となる。修学旅行もふくめた訪問経験率の高さがこの数値を支えているともいえるが、認知度とのギャップも少なく、他を圧倒する状態である



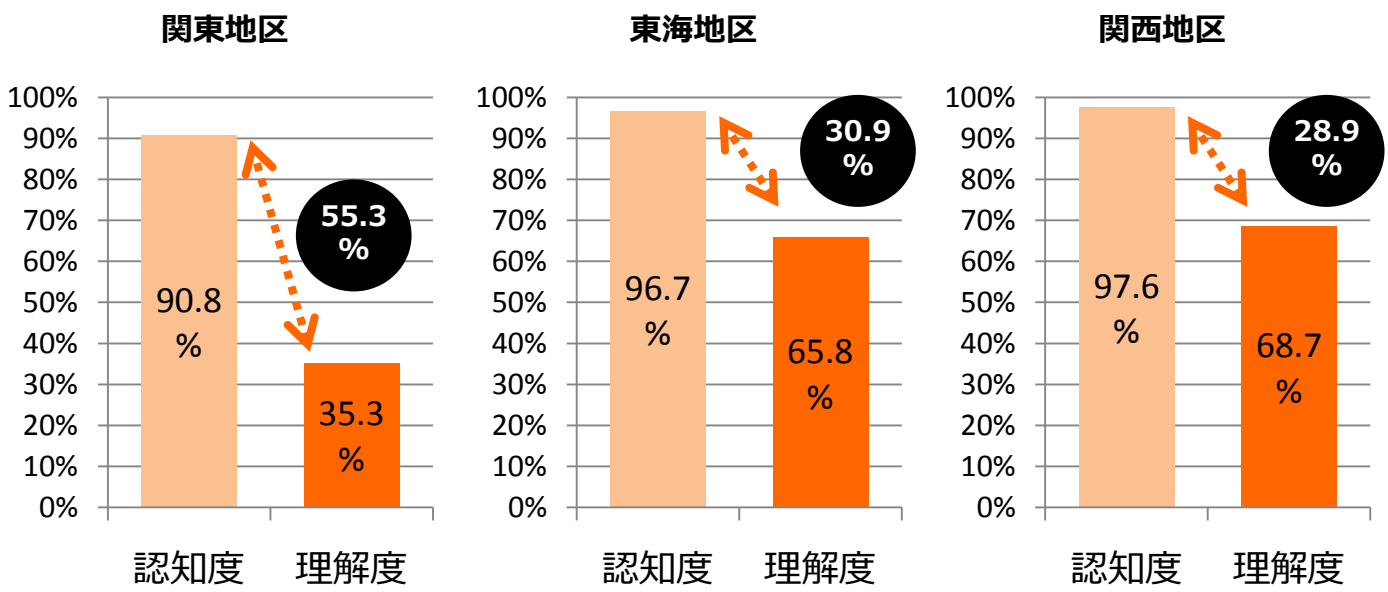
東大寺・興福寺・春日大社エリア（奈良）

理解度は、地元関西はもちろん関東･東海においても50%に迫る数値となるが、近隣「京都」と比較した場合、認知度とのギャップ値もふくめて顕著な差を開けられている



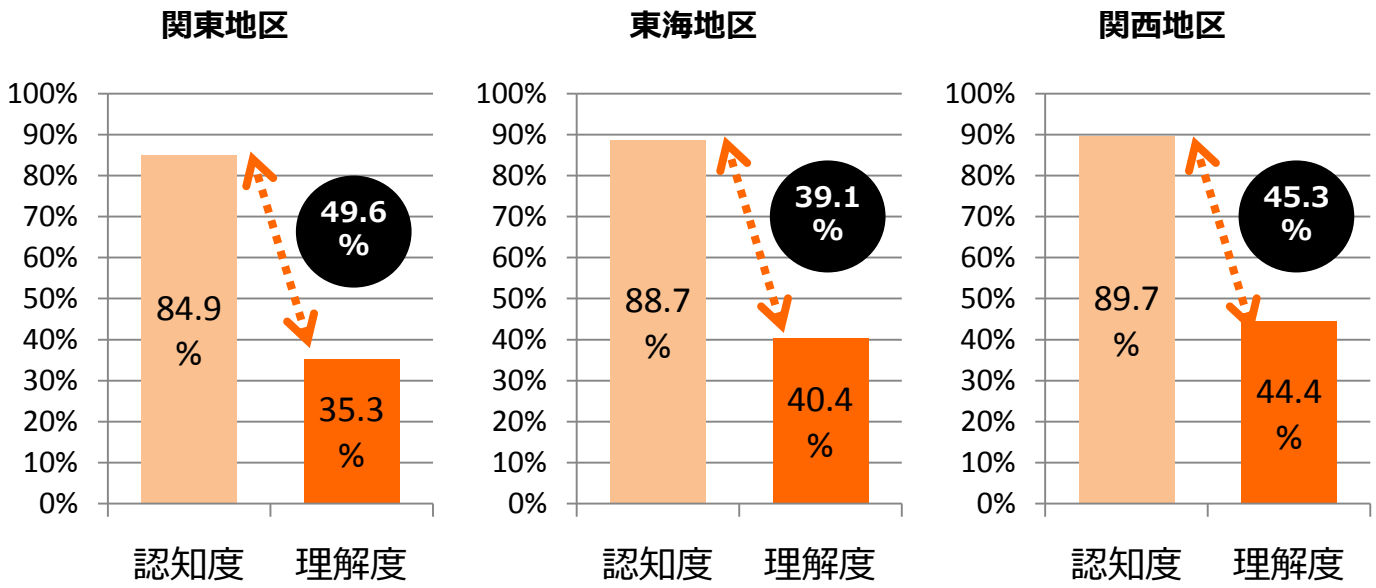
伊勢・志摩エリア（三重）

理解度は、地元関西･東海で60%を超える数値となるが、関東では平均にも及ばない35.3%となっており、90%を超える認知度とのギャップも55.3%と極端に開いている



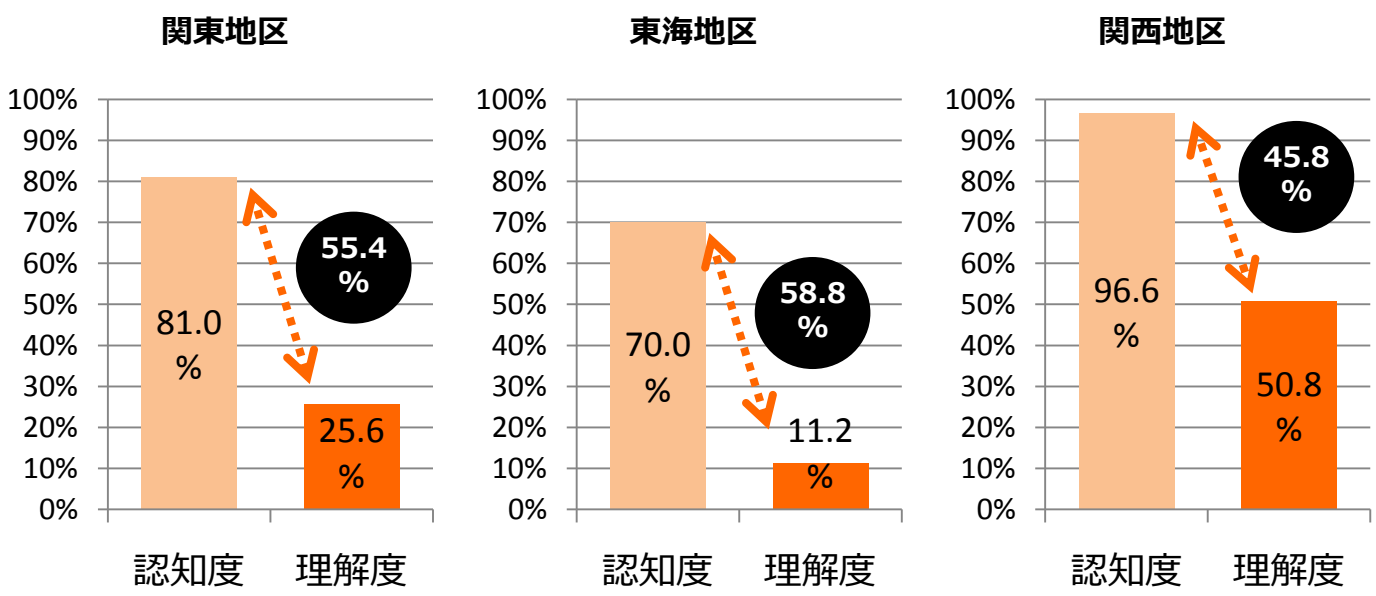
兼六園・香林坊・ひがし茶屋街エリア（金沢）

居住圏ごとの数値差はあるものの、全体としては認知度・理解度いずれも平均値に近いポイントとなる。当調査は北陸新幹線の開業前のデータとなるため、今現在では増率している可能性も考えられる



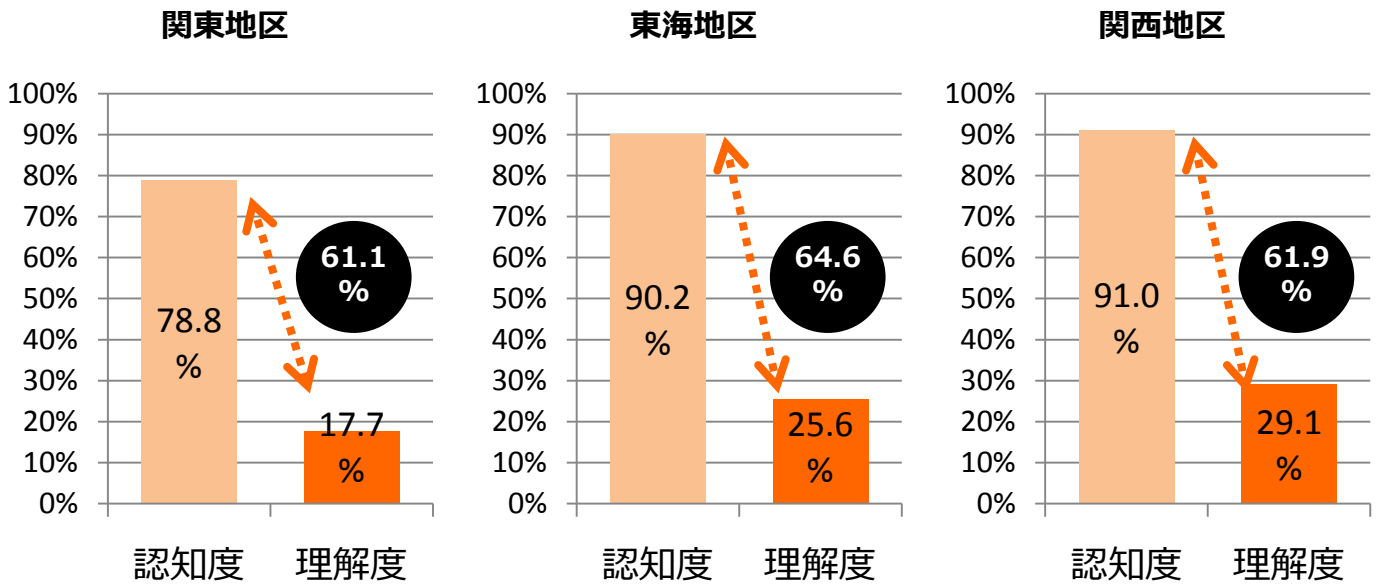
あべのハルカス（大阪）

認知度・理解度いずれも、地元関西と関東･東海のポイント差が顕著に生じており、関東よりも近距離にある東海圏在住者の方が低い数値となる



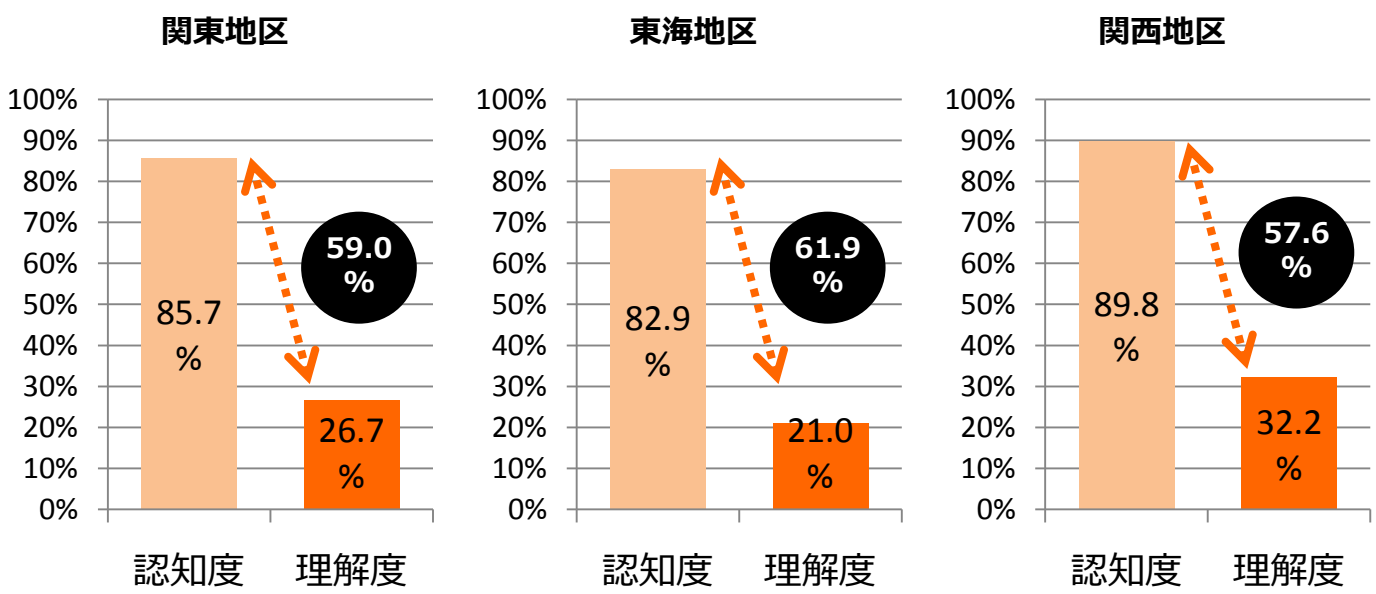
熊野古道

関東・東海・関西いずれの地区においても、認知度と理解度のギャップが60%を超えている点が特徴。数値だけで考えると、認知が先行し、理解が十分に追いついてないエリア・スポットといえそうである



鹿児島

認知度は、押し並べて平均値に近いが、理解度になると平均値を10ポイント程度下回る。結果としてそのギャップは60%ほど生じており、「熊野古道」と同様に、認知先行の状態といえそうである



●調査結果から

今号では、８つの観光エリア･スポットを取り上げて、「認知度」と「理解度」、その間に存在するギャップを数値で確認してみました

対象の15エリア･スポットに限ったデータとはなりますが、全体の平均値としては認知度が84%、理解度が40%、そのギャップは44%となり、本レポート内でご紹介した「兼六園・香林坊・ひがし茶屋街エリア（金沢）」が平均的な状態として抑えておくことができそうです

理解度自体は、訪問経験率にも多分に左右される数値であるため、実際の観光客の流入状況を示しているようにもみてとれます。「京都」の数値結果は、まさにその象徴といえるでしょう

少々意外に思えたのが、式年遷宮で賑わいをみせた「伊勢･志摩エリア（三重）」の関東地区での理解度が、東海･関西地区と比較して半分程度（35.3%）しかない点です。「伊勢神宮は分かるけど、他は知らない」といった方が一定数存在するのかもしれません。そういった意味でも、2016年5月に現地で開催予定のサミットは、このエリア全体の理解を一層促すうえでも格好の機会となることでしょう

他エリア･スポットの数値も確認しつつ、次号Vol.6では「横浜中華街・みなとみらい・山下公園エリア（横浜）」「伊豆エリア（静岡）」「飛騨高山エリア（岐阜）など残り7つのエリア･スポットの結果を引き続きご紹介していきたいと思います

調査概要

調査方法	:	インターネットリサーチ
調査地域	:	関東圏（東京都,神奈川県,埼玉県,千葉県） 東海圏（愛知県,岐阜県,三重県,静岡県） 関西圏（大阪府,京都府,兵庫県,奈良県,滋賀県,和歌山県）
調査対象	:	20歳～69歳の男女かつ、過去１年間で宿泊を伴う国内旅行の経験者
割付方法	:	エリア（首都圏,東海圏,関西圏）×年代（20,30,40,50,60代）人口構成割付比で回収 / 合計3,000サンプル
調査日時	:	2014年11月
調査機関	:	株式会社ジェイアール東海エージェンシー　株式会社ビデオリサーチ

＜調査結果の引用・転載、取材などに関するお問い合わせ先＞
株式会社ジェイアール東海エージェンシー　コミュニケーションデザイン部　担当：小方・大橋
TEL: 03-6688-4779　e-mail: k-ogata@jrta.co.jp